沿革

三菱重工グループは、エンジニアリングとものづくりのグローバルリーダーとして、1884年の創立以来、社会課題に真摯に向き合い、人々の暮らしを支えてきました。長い歴史の中で培われた高い技術力に最先端の知見を取り入れ、人々の豊かな暮らしを実現します。

1884 – 1945年

造船業をベースに輸送インフラを製造

1884年、創業者である岩崎彌太郎が明治政府から長崎造船局を借り受けて事業を開始。日本初の鉄製汽船をはじめとする技術力を活かしてタービン、内燃機、航空機、自動車等のさまざまな機械分野に進出し、事業の多角化を進めました。不安な世界情勢の下、当時最先端の技術は軍需でも活用される時代でした。

1946 – 1963年

戦後復興を支える民生品の世界へ

戦後はさまざまな民生品の開発・製造に軸足を移し、日本の復興を支えました。1950年、GHQの財閥解体方針により3社に分割されると、製品規模をさらに拡大・多様化し、技術競争力を高めました。後の重厚長大産業のリーディングカンパニーに成長する礎となりました。

1964 – 1999年

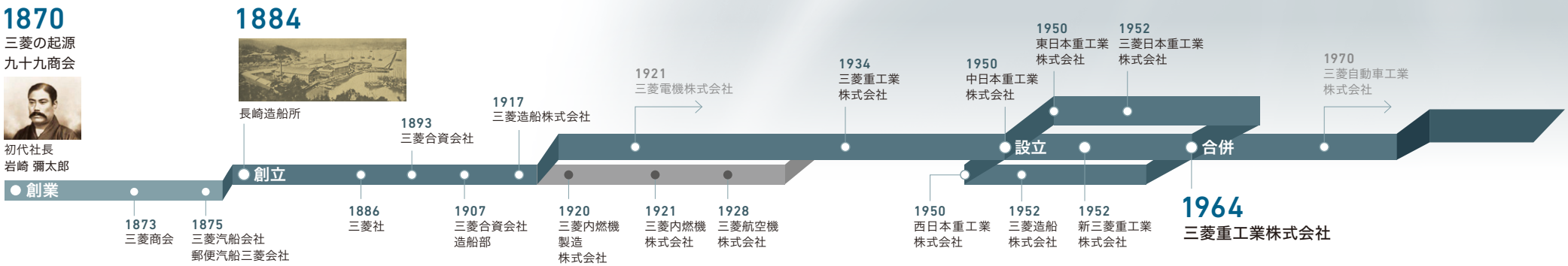
三重工合併により、大規模開発事業へ

1964年、分割された3社が再度合併し、新生・三菱重工業が発足。急増する電力需要や旺盛な民間設備投資に対応し、高度経済成長を支えました。その後、深刻な造船不況に見舞われた当社は、発電設備や航空機等の成長分野に注力するとともに、海外に活路を求めて事業のグローバル化を推進しました。また、宇宙開発に代表される高度な技術力で時代を切り拓きました。

2000年 –

持続可能な社会の実現に貢献

エネルギー需要拡大への対応と、環境負荷軽減の両立が課題となる中、世界最高効率のガスタービンや原子力発電プラント、CO_2回収プラントなど、さまざまな製品やソリューションを提供し、持続可能な社会に向けて貢献しています。2021年には、カーボンニュートラル宣言「MISSION NET ZERO」を発表しました。



1908
造船史に残る1万総トンを超えた日本初の大型客船「天洋丸」建造

1908
日本初の蒸気タービン製作

1939
「ニッポン」世界一周親善飛行に成功

1970
PWR原子力発電プラント「関西電力美浜1号機」運転開始

1986
H-Iロケット初号機打上げ成功

2011
世界最高効率のJ形ガスタービンが実証運転で世界最高のタービン入口温度1,600℃を達成

2016
米国で世界最大級CO_2回収プラント（原油増進回収用）完成

2019
カタールで全自動無人運転都市鉄道「ドーハメトロ」が運行開始